



平成 26 年 5 月 8 日

各 位

会 社 名 株式会社ヤマダ電機
代 表 者 名 代表取締役社長 山田 昇
(コード番号 9831 東証第一部)
問 合 せ 先 経営企画室部長 山田 寿
(TEL. 027-345-8181)

平成 26 年 3 月期 個別業績の前期実績との差異に関するお知らせ

平成 26 年 3 月期（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）の通期個別業績につきまして、前期実績との間に差異が生じましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 平成 26 年 3 月期の通期個別業績との差異（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当期純利益 (※)
前期実績 (A) (平成 25 年 3 月期)	百万円 1,532,011	百万円 32,738	百万円 45,508	百万円 20,070	円 銭 21.30
当期実績 (B) (平成 26 年 3 月期)	1,703,422	32,081	44,471	26,826	29.05
増減額 (B－A)	171,410	△656	△1,036	6,756	
増減率 (%)	11.2	△2.0	△2.3	33.7	

(※) 当社は、平成 25 年 8 月 12 日開催の取締役会において、平成 25 年 10 月 1 日付で株式 1 株につき 10 株の割合をもって株式分割を行っておりますが、前期実績につきましても株式分割が行われたものと仮定して 1 株当たり当期純利益を算定しております。

2. 差異の理由

平成 25 年 6 月 1 日付で子会社であった株式会社ダイクマ、サトームセン株式会社を吸収合併したことに加え、売上高について、消費増税前の駆け込み需要もあり、冷蔵庫、洗濯機、エアコン等の省エネ・高機能の白物家電・季節商品が好調かつ堅調に推移したこと、テレビやレコーダー等の映像関連商品についても、夏以降、底打ち感が見られ、インチアップや 4K テレビ等の高付加価値商品の伸長に伴う単価の上昇が見られたこと、Windows XP のサポート終了前の買い替え需要によりパソコン本体も大きく伸長したことによるものです。

なお、連結業績につきましては、「平成 26 年 3 月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」をご覧ください。

(注) 上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる可能性があります。

以上